

コメント

岡本孝司

1. 人材育成ロードマップについて

重要なロードマップでもあり、本 WG での評価を示すべきと思います。

2. 研究炉について

人材育成ロードマップにおいては研究炉の重要性が明記されています。人材育成だけではなく、安全性向上においてきわめて重要なツールです。日本の実力を高めるためにも、安全性向上ロードマップにおける研究炉の位置づけを明確化すべきと考えます。

研究炉だけではなく、極めて大きなベネフィットがあるにもかかわらず、大規模な投資を必要とする投資リスクの高い案件について、どのように政策に反映していくのかをしっかりと議論する場が必要と思われれます。

3. 安全性向上ロードマップの評価

極めて短期間に、大量の作業を進められたことに敬意を表します。残念ながら、重要度の評価については議論が必ずしも十分ではなく、継続的に改善を行う事が重要です。その中で、◎と△が入れ替わる可能性も十分にある事を認識する事も重要です。例えば、今回追加されたセキュリティーなどの現状を理解されている方が評価されているのかなど、疑問もあります。

特に政策決定の根拠などに利用する場合には、WG の責任として、WG メンバーによるレビューを実施するなど、幅広いステークホルダーによるレビューを継続していく事も重要と考えます。

例えば、先週の ICONE(原子力工学国際会議)において、本 WG の活動について報告され、国内にとどまらない、国際的なレビューが重要であるとの議論もありました。もちろん、規制を含む国内の様々なステークホルダーとのコミュニケーションも重要です。学会にお願いするだけではなく、WG としてのレビューの責任を明確化する必要もあると考えます。

4. 原子力安全に関する戦略

現在、進められている、エネ庁の人材育成公募には、3月時点の評価結果を元にした重要度分類が明記されていますが、ほぼすべての分野が書かれており、折角のロードマップの結果が有効に活かされていません。

研究炉について上述しましたが、ロードマップに明記された産官学の役割分担を踏まえ、

選択と集中による国家規模の戦略を構築する事が必要と考えます。個々の技術開発に関する重要度だけではなく、戦略の重要度を決定し、その戦略に対して積極的な開発を進める事が必要です。国内の安全な原子力利用を活性化するだけではなく、海外への貢献を踏まえた戦略の重要度を評価する事が必要と考えます。弱点を補強する視点だけではなく、日本の優位性を強化する視点が重要と思います。

#### 5. 提言について

提言の中では、現場を重視する事をもっと明記すべきと思います。福島第一の事故時にも現場ががんばったからこそ現在の比較的安定な状況があります。本社などは全く機能していませんでした。

同様に、安全性向上についても、本社や NRRC でいくら議論してもあまり役に立ちません。現場の技術力を向上させる仕組みをぜひ導入してください。これには、リスクを重視した考え方を発電所全員が理解し、また、毎日リスクに向き合う事でのみ達成できます。リスクを考えるツールとしての PRA も、現場で毎日使ってこそ、意味があります。

また、NRRC や JANSI のような別の立場から現場を見る事の出来る仕組みを、もっと現場重視で活用すべきと思います。机の上の議論ではなく、現場を歩いた議論を是非お願いします。

なお、「残余のリスクを低減する」という言葉がいくつか出てきますが、「リスクを低減する」とする方が誤解が少ないと思います。「残余のリスク」の補集合である制御された(と考えられている)リスクを低減する必要がないと誤解されることを危惧します。

以上